



心のビタミン No.211



マンガを世界に

先日、京都国際マンガミュージアムを訪れて驚いた。なんと、5万冊のマンガが、1日中読み放題。館内の廊下には総延長200メートルの書棚「マンガの壁」が続く。

私の大好きな手塚治虫や藤子不二雄など、すべての漫画家の作品が揃う。

特に1968年から連載中の「ゴルゴ13」は凄い。わが国で長寿漫画として広く知られ、さいとう・たかを氏のコーナーがなかなか秀逸だった。興味深い解説を見つけたので若干紹介したい。マンガ的記号には次のような種類があるという。

①漫符・怒りの青筋、②音喩（オノマトペ）…静寂のシーン、③効果線…車が走るスピード線、④

フキダシ・登場人物のセリフ。今まであまり気付かなかったが、日本人の細やかな心情や感性をわずかな線の違いで表現しているのは素晴らしい。

擬音語や擬態語が豊かな日本語と英語とを比べると違いがわかるだろう。

日本人が最初に刊行した「絵新聞日本地」も閲覧できた(図)。明治7年、仮名垣魯文が発行したものだ。この誕生から現在までマンガは成長し花開いた。京都精華大学の竹宮恵子学長はマンガ文化論について、集合知の力を指摘している。

館内では老若男女誰もがあちらこちらで自由に座り寝そべり、読みふける姿が。想像力を無限に広げてくれるマンガは、日本の優れた文化であり誇らしいものだ。これからも、日本のスピリットを世界に発信していったほしいと思う。

(医師 音楽家 板東浩)

